

図書館エッセイ

「七夕」

尾鷲市立図書館協議会委員 湯浅 祥司

三千年前に編纂されたバラモン教・ヒンドゥー教の聖典ヴェーダ(Veda)には、宇宙の仕組みが詳しく解説されています。不思議なことに、宇宙のスケールなどは現在の天文学で得られた知識と概ね一致します。



偶然だ、と一蹴するのは簡単ですが、観察や経験を重ねて編纂された本は、案外真実を突いていることが多いものです。論語や徒然草が読み継がれているのも、私たちの脳が大昔からほとんど同じレベルにあり、むしろ純粋に考えることができた昔の人の方が、深いところまで到達している証拠かもしれません。

初夏になると、夏の天の川を舞台に繰り広げられる七夕伝説があります。七夕は、およそ千五百年前の中国南北朝時代の詩文集・文選に初めて出てくるとされる伝統行事で、中国・日本・韓国・ベトナムなどで今も行われています。「天帝の雲錦天衣を織る織女は、容貌を整える暇もなく働きました。不憫に思った天帝は、よく働く牛飼いの青年に嫁ることを許しました。ところが二人とも今までのように仕事をしなくなったので、年に一度合わせることにしました。」これが、最も古い七夕の話です。

7月7日は大抵天気が良くないです。明治5年、暦が太陽暦いわゆる新暦に変わりました。このとき、旧暦では上弦の月の頃にあった七夕を、単純な数字合わせで7月7日にしてしまいました。半月を天の川を渡る舟に見立てた伝説が、無視されてしまったのです。それで、満月の晩にも七夕がくるし、なにより梅雨の終わり頃のイベントになってしまったのは残念です。中秋の名月のように、もう少し検討して月齢を基準に設定してくれていたら、こんなことは起こらなかったでしょう。

織女星(こと座ベガ)のすぐ近くに、惑星状星雲があります。指輪のような形をしているので、リング星雲ともいいます。恒星が超新星爆発に至らず、一生を終えている姿、といわれています。場所と形から、私達の感覚では愛する織り姫さんにプレゼントした婚約指輪、と考えてしまいます。指輪を見せてもらうには、口径10cm以上のしっかりと望遠鏡が必要です。望遠鏡が発明される千年も前から、指輪を持った織り姫さんが、ここに住み始めたと思うと、なにか不思議な感じがします。もしかして、宇宙の神様が密かに準備していたのでしょうか。

天文学的な時間で考えると、1万2千年後、地球の首振り運動(歳差)で、ベガが北極星になります。また、1万年後に彗星との角度は、今より1度離れます。満月の2倍なので、決して小さな角度ではありません。……二人の間になにかあったのでしょうか？

そんなことを想像しながら、今夜はゆっくり星空を眺めましょう。

WELCOME 伊吹有喜さん♡

5月18日(水)、尾鷲市生まれの作家・伊吹有喜さんが、尾鷲市立図書館へいらっしゃいました！ 現在、月刊『小説新潮』にて連載中の小説「灯りの島」は、なんと尾鷲を舞台にしたお話です。その取材で来鷲し、図書館でも資料をご覧になりました。

伊吹さんの小説は映画化・ドラマ化された作品も多く、今年5月公開の映画『今はちょっと、ついてないだけ』も伊吹さん原作です。どの小説もおすすめですので、ぜひ読んでみてください。



戦時中の尾鷲について資料をご覧になりました



館内の特設コーナーで、大変気さくで本当に素敵な方です！

2022 **7** July

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2022 **8** August

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2022 **9** September

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

■ は休館日、薄い色 は祝日

おはなし会の予定

★おはなしだっこ【赤ちゃん対象】
第1木曜 1歳児以上 10:00~
0歳児 10:45~

★おはなしのひろば【幼児対象】
毎週土曜日 11:00~11:30
(ただし第5週はお休みです)

尾鷲市立図書館 (〒519-3616 三重県尾鷲市中村町 10-41)

開館時間 火~金 9:30~19:00 / 土日祝 9:30~17:00

休館日 月曜日・月末 ※月曜日が祝日の場合は翌日休館

年末年始・蔵書点検期間 月末が土日の場合は直前の金曜日休館

電話番号 0597-23-8282 FAX 0597-23-8283

図書館 HP <https://ilisod003.apsel.jp/owase-library/>



図書館だより 2022年夏号

つみくさ



夜空を見上げてみませんか

毎日暑い日が続いていますが、日中は外に出られない程の暑さでも夜になれば少し気温が和らぎます。夏の夜空といえば、天の川、夏の大三角形などの星々が輝いていて、雨上がりなどは特に綺麗に見えますね。尾鷲に天文台が作られたのも、雨が多いゆえに星が綺麗に見えるからなんだそうです。

今回は、星、月、夜など、夜空に関する本を集めました。冷房の効いた室内も最高ですが、ちょっとだけ外に出てみて、夜空を見上げてみませんか？



尾鷲の夜空



『メシエ天体カタログ』
尾鷲市立天文科学館

尾鷲市立天文科学館の職員および入館者とともに撮影し、3年の歳月をかけて完成した「メシエ天体カタログ 尾鷲 Ver.」。その制作過程や撮影カメラ、撮影者などの記録です。雨の多い尾鷲は大気中のチリを雨で洗い流すので、大変綺麗に星が見えるんだそうです。

←ポスターにもなりました！



《目次》

- ・夜空を見上げてみませんか
- ・図書館利用者さんの「これ読んでみまー！」
- ・図書館エッセイ…湯浅祥司さん

- ・星のほん・月のほん・夜のほん
- ・「ねえねえ知ってる？」…図書館用語について
- ・3ヶ月ランキング
- ・WELCOME 伊吹有喜さん♡



『勘定侍柳生真剣勝負シリーズ』

(上田 秀人/著、小学館)

寛永十三年。一万石大名になった柳生家は、剣の腕は立つものの金勘定が苦手である。御家を守るため思いついた秘策は、なんと大坂一と言われる唐物問屋淡海屋の孫である一夜を召し出すというものだった。果たして一夜は柳生家を救えるのか？

江戸時代の一般庶民の日常や生活様式が描かれていて、興味深い。昔の時代小説といえば活躍する武士が描かれていたが、近ごろの小説では武士も逃げ出したり…、人間らしく面白い。

凡さん (80代・男性)



『定年オヤジ改造計画』(垣谷 美雨/著、祥伝社)

夢にまで見た定年生活。しかし妻は「夫源病」を患い、娘からは「アンタ」呼ばわり。気付けば暇と孤独だけが友達に。そんなある日、息子夫婦から孫2人の保育園のお迎えを頼まれて…。人生初の子守を通じて、崖っぷちの定年オヤジが離婚回避と家族再生に挑む物語。

主人公は定年退職したサラリーマン。家でも家族に対して上から目線で物を言って、定年後の男の人ってこんなあるある！と思って読めます。でも、息子夫婦の孫を預かるようになって、息子の時にはおむつの世話などしたことなかったので大変！くすっと笑える小説ですので、読んでみて下さい。

Mさん (70代・女性)



『まるまるまるのほん』(エルヴェ・テュレ//さく、たにかわ しゅんたろう//やく、ポプラ社)

本を開いて、「まる」にさわって、こすってごらん…。「まる」で生きているような「まる」を使って遊ぶ、「まる」っきり新しいフランス発のポップな読者参加型絵本。

この絵本は読む絵本ではありません。絵本の指示にしたがって、子どもが絵本のページをこすったり、クリックしたり、傾けたり、ゆすったりして遊ぶ、とても楽しい絵本です。「次はどうなるのかな？」とワクワクしながら親子で楽しめる絵本です。

f & hさん (30代・女性)

星のほん

【小説】



『天地明察』 沖方 丁/著 KADOKAWA 江戸時代、各地を巡り天の星々を計測し「日本独自の暦」を作ることに生涯を賭けた男がいた。碁打ちにして数学者である渋川春海の20年にわたる奮闘・挫折・喜び、そして恋一。日本文化を変えた大計画を描き、本屋大賞を受賞した傑作時代小説。



『かぞえきれない星の、その次の星』 重松 清/著 KADOKAWA 大切に大好きな相手であればあるほど、いまは会えない。父と幼い娘は、画面越しに会話するしかなくて…(「天の川の兩岸」)。毎年お盆に来るおばあちゃん。今年は新しい「ママ」がいて…(「送り火のあとで」)。今の時代を生きる人々に贈る、さみしさと希望を夜空にちりばめた、11の物語。



『星の王子さま』 サン=テグジュペリ//作 内藤 濯//訳 岩波書店 世界中で愛読される「星の王子さま」を、アメリカで出版された初版本に拠って改訂。ニューヨークのモーガン・ライブラリーに所蔵されている草稿やデッサンの中から選んだ素描6葉も巻末に収録。どの世代の心にも響く、不朽の名作です。

【その他】



『日本の星空ツーリズム』 縣 秀彦//編著 緑書房 山の中で見上げる無数の星たち、南のリゾートで海に映る月明かり…。天文の専門家がオススメする、北海道から沖縄までの美しい星空が見えるスポットを収録。星空初心者にも役立つ情報も紹介しています。

ねえねえ知ってる？

図書館用語について

図書館には独自の専門用語があることをご存知ですか？ 日常では使われない言葉なので、図書館以外ではなかなか耳にする機会がない図書館用語。その一部をご紹介します。

★書架(しょか) 書棚・本棚のこと。利用者さんが自由に本を手にとることができる書棚を「開架」、倉庫内など自由に手に取れない書棚を「閉架」という。

★相互貸借(そうごたいしゃく) 図書館同士で、本を貸したり借りたりすること。新刊の依頼は3ヶ月待ちや半年待ちなど、各館で貸出の条件が違っている。

★レファレンスサービス 利用者さんの疑問・調べ物のための様々な資料や情報を探し、検索方法の提供や、回答へのサポートをすること。

月のほん

【小説】



『いかだ満月』 山本 一力/著 角川春樹事務所 江戸の義賊として名を馳せた鼠小僧次郎吉が獄門になった後、相棒だった材木問屋の祥吉は、残された次郎吉の妻と息子・次郎を守れることを誓う。祥吉は熊野杉の買い付けのために、次郎吉を連れて紀州・新宮へと向かうが…。尾鷲には立ち寄りませんが、「尾鷲丸」という船が登場します。



『半分の月がのぼる空』上・下 橋本 紡/著 KADOKAWA 急性肝炎で入院している高校生の裕一はある日、黒髪で色白な少女、里香を見つける。里香は心臓病を患っていて…。伊勢を舞台にした、普通の少年と少女の、だけど“特別”な物語。台詞を伊勢弁に修正するなど大幅改稿した完全版です。

【その他】



『3つのアポロ』 的川 泰宣/著 日刊工業新聞社 アポロは決して宇宙飛行士だけが作り上げたものではない。技術者、飛行士、科学者の三者が紡いだ「3つのアポロ」だった。人類初の月面着陸という「アポロ計画」を実現させた人々と、その偉業達成の経緯を分かりやすく描いた一冊。当時の写真も多数掲載しています。

【エッセイ】



『月夜の森の梟』 小池 真理子/著 朝日新聞出版 著者と藤田宜永さんの作家夫婦は病と死に向きあい、どのように過ごしたのか。残された著者は、過去の記憶の不意うち苦しみに、その後を生き抜く。朝日新聞に連載されていた、心の底から生きることを励ます喪失エッセイ。

夜のほん

【小説】



恩田 陸/著『夜のピクニック』(新潮社刊)

高校最後のイベント「歩行祭」。全校生徒が夜を徹して80キロ歩くその伝統行事に、貴子は小さな賭けをして臨む。本屋大賞にも輝いた、永遠普遍の青春小説です。

【絵本】



『よるのおと』 たむら しげる/著 偕成社

男の子が池のほとりを歩いておじいさんの家につくまでのほんの数秒。その間におこる小さなドラマと、そこにひろがるゆたかな世界を描いた一冊。夏の夜の匂いや空気感も伝わってくるような絵本です。

【レシピ】



『夜に飲むリカバリースープ』 浜内 千波/著 WAVE 出版

目が疲れたときは「紫キャベツのお茶漬け冷製スープ」、むくみが取れないときは「かぼちゃのスープ」を。慢性的な不調や、体質改善、疲労回復に効果のある「リカバリースープ」を症状別に紹介します。



『るるぶ宇宙』 林 公代/監修 JTBパブリッシング

国際宇宙ステーションをあの旅行誌るるぶで大特集！また、探査の最前線から未来の旅行プランまでを紹介し、JAXA 筑波宇宙センターなど日本の宇宙スポットを案内する。宇宙スペシャルグラフィックも掲載。データ:2021年1月現在。

3ヶ月ランキング

2022年4月~6月です

1位 『透明な螺旋』 東野 圭吾//著 文藝春秋

房総沖で男性の遺体が見つかった。失踪した彼の恋人の行方をたどると、関係者として天才物理学者・湯川学の名が挙がって…。つみくさ春号に引き続き第1位となりました。



2位 『あきない世傳金と銀』 10 高田 郁//著 角川春樹事務所

3位 『熱血一刀流』 全4巻 岡本 さとる//著 角川春樹事務所